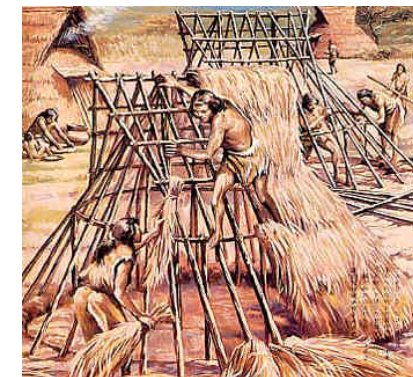


◆◆◆◆縄文時代の習志野原◆◆◆◆



現在の西習志野にある高郷小学校の敷地で、船橋市初の
本格的調査の行われた縄文中期のムラ

『高根木戸遺跡』が発見された。



昭和20年に開拓のために入植した高橋^{ひろし}熙さんは、開墾作業の途中で土の中から顔を出す土器や石器を丹念に拾い集めていた。幼少の頃から考古学に興味があり、縄文時代の遺物ではないかと思ったことから、畑の何処から、いつ拾ったかを記録していた。時間のある時には国立博物館へ通い 自分拾った遺物と展示してある遺物を比較するなどして調査を続けていた。

いつの間にか集めた遺物は大変な量となっていたので、昭和42年(1967)3月に町内会で高橋さんの資料を展示することとなった。しかし、どのように展示していいものかを市の教育委員会へ相談したところ、担当職員がその資料の量に驚き、当時の千葉県加曾利貝塚博物館の学芸員に指導を仰いだ。学芸員もそのコレクションに驚き、資料の鑑定や分類を行い、展示について全面的に協力をした。そして県の教育委員会や市の文化財審議委員らの協力を得て高橋さん宅の庭で「古代習志野文化出土展」が開催され、1,000人以上の人々が訪れた。

当時の市長も「出土展」を訪れ、高橋さんは市長から高郷小学校建設計画を聞かされた。「学校は必要ですが、あの場所には遺跡があるから建設前に発掘するか保存をして下さい」と高橋さんは市長へ訴えた。このことから専門家を中心とした調査団が組織され大規模な発掘調査が行われた。